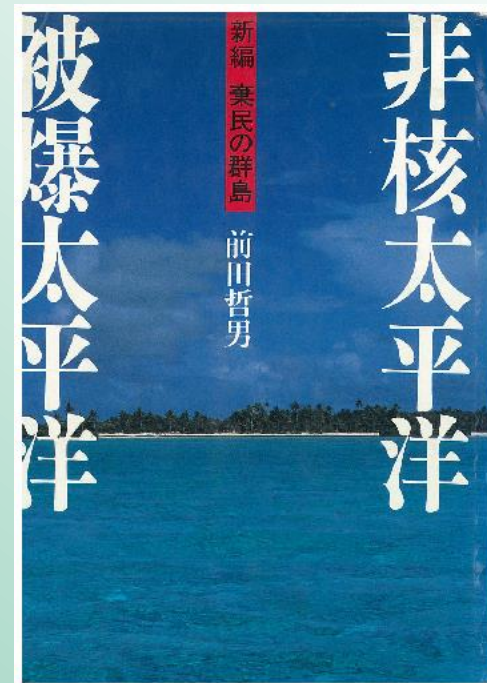
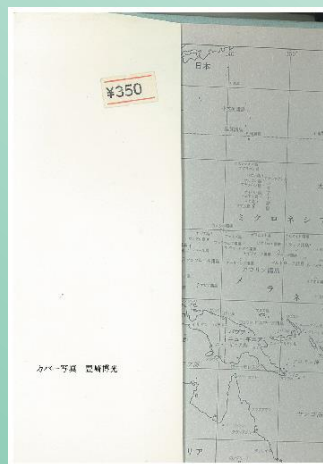


マーシャル諸島核実験被害に関するウェブデジタルアーカイブ構築

総合地球環境学研究所
OpenTS 研究員 中原聖乃

TD研究に出会うまで

- 1990年代前半～ 会社員 & 大学生(夜間部)
社会人大学生
接着剤メーカーでの営業部と科学技術部
マーシャル諸島の本と出会う



- 1990年代後半～ 大学院生
文化人類学との出会い

2020/2/2





2020/2/25

3

TD研究に出会うまで

- 2000年代後半～ 非常勤講師
塾講、「文化人類学」「オセアニア研究」「平和学」
- 2010年代前半～
民族学博物館共同研究 「放射線影響をめぐる
「当事者性」に関する学際的研究」
地球研IS
「放射能汚染地の
暮らしの再生—
異なる立場の
相互理解を目指して」
- 2018年9月～
地球研 OpenTSプロジェクト 研究員
TD研究との出会い



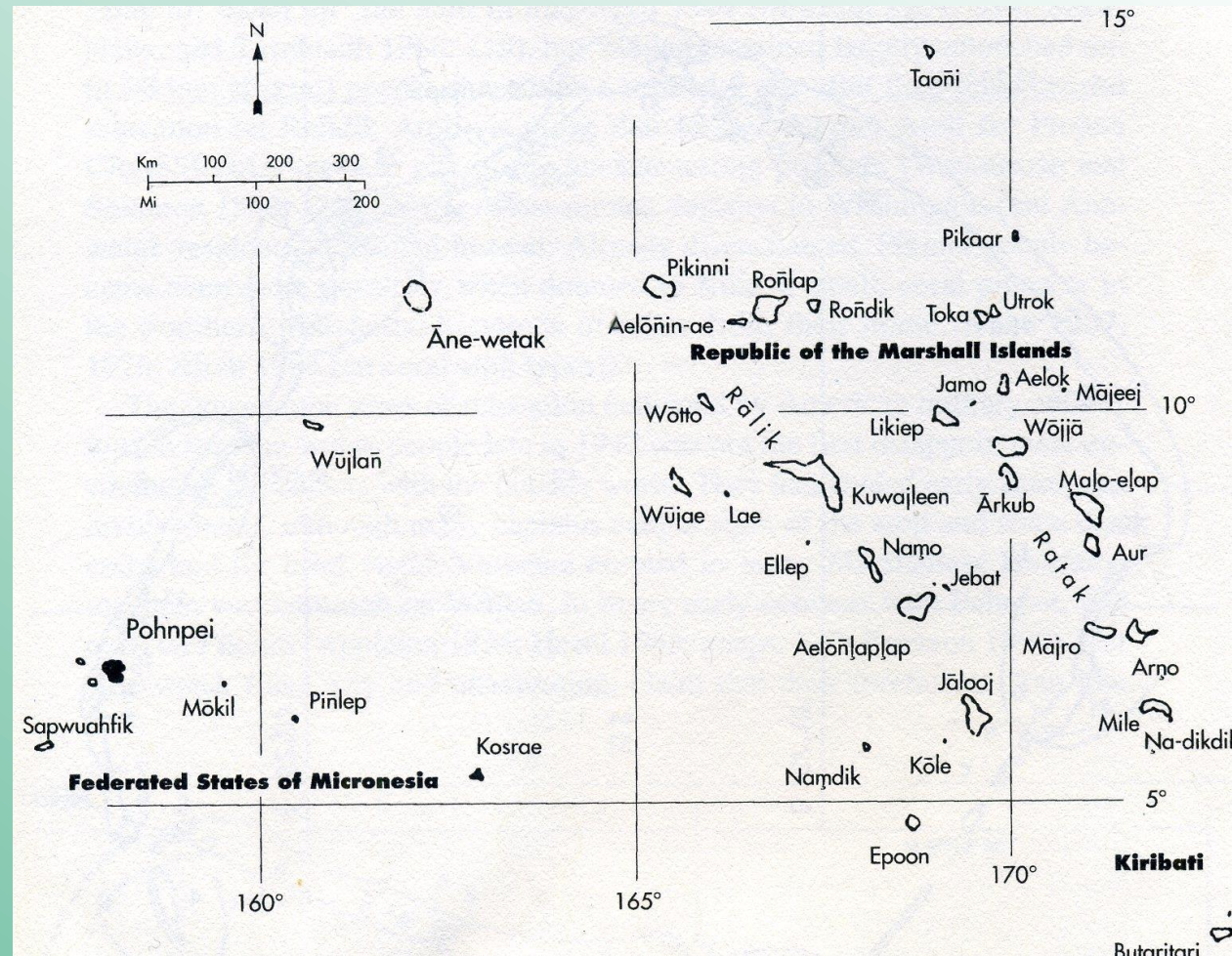
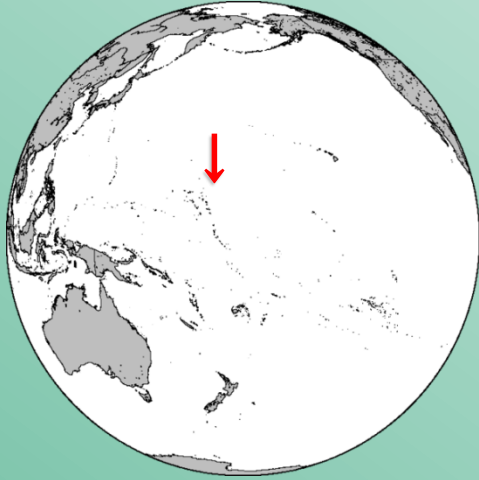
マーシャル諸島核実験被害に関するウェブデ ジタルアーカイブ構築について

びわ湖の水草繁茂問題

- びわポイント＝ボランティアをねぎらう仕組み
＝広範囲に広げていく
- びわ湖の水草繁茂問題に対して、掃除をして
畑で使うグループがある。
- 自身の活動を重視しているように見受けられ
ない。＝声の小さな人
- 小さな規模での意見交換会

マーシャル諸島地図

The Map of the Republic of the Marshall Islands



独立 Independence

1986

国土面積 Land Area:

181km² 70sq miles

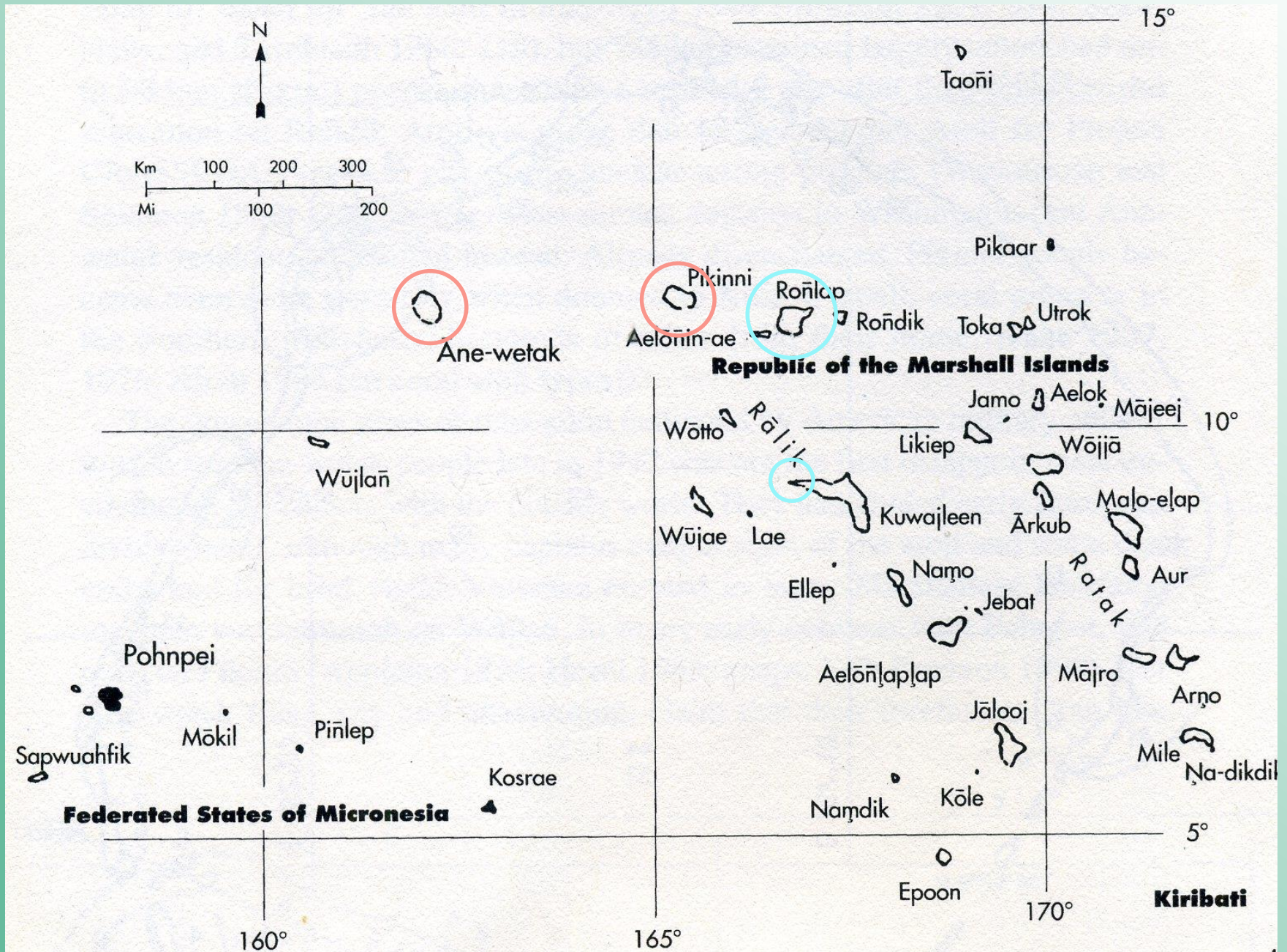
人口 Population: 53,158

行政地区 Administrative

section : 24

Laurence Marshall Carucci, *Nuclear Nativity: Rituals of Renewal and Empowerment in the Marshall Islands*, p.5.

核実験場・ロンゲラップ





水爆実験ブラボー H-bomb “Bravo”

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A0%B8%E5%AE%9F%E9%A8%93>

急性放射線障害：頭痛、吐き気、めまい

Accute Radiation Effects: Headaches, Dizziness, Loss of hair

晩発性放射線障害：甲状腺機能障害、がん、白血病、白内障

Rate Radiation Effects: Thyroid disorder, Cancer, Leukemia.



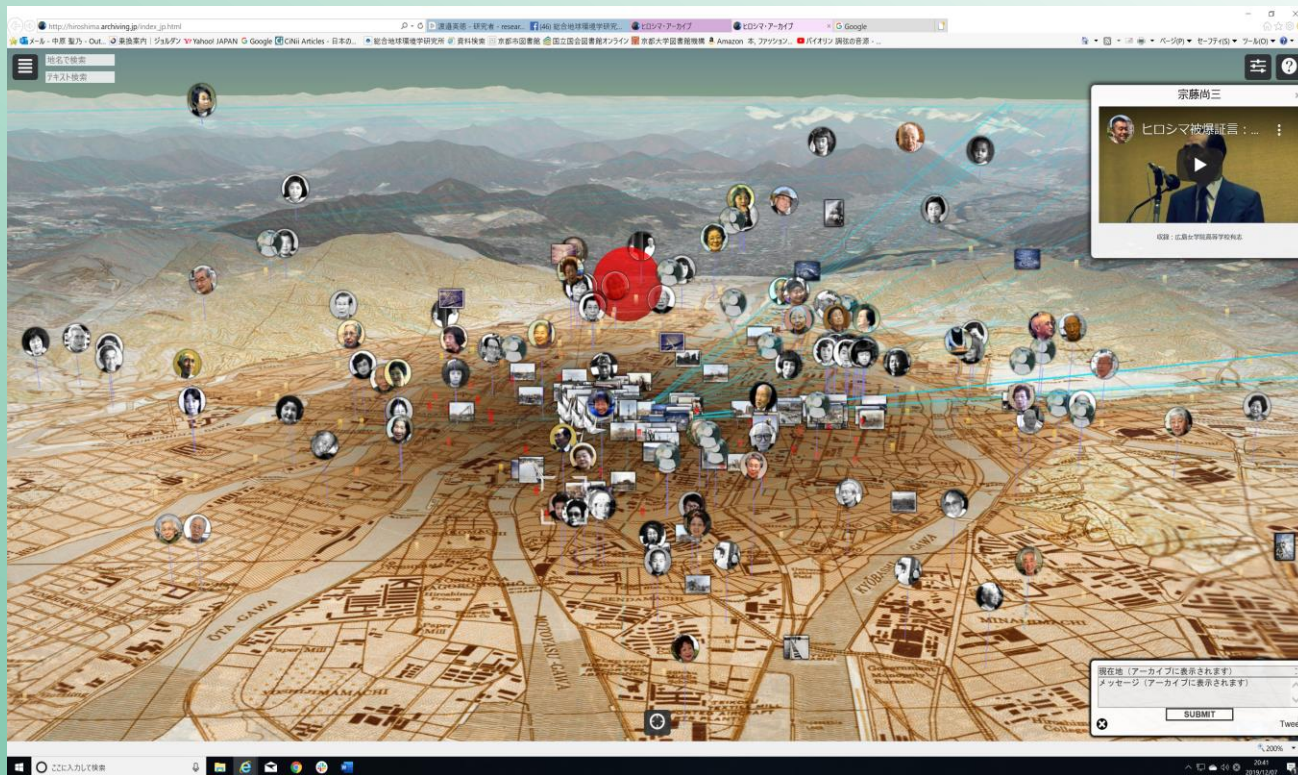
2020/2/25

問題の所在

- 現地の文化＜被ばく
- 被ばく者の中に存在する別の被害の語り。
不慣れな避難地での漁労中に遭難
地域独特の毒魚の知識の欠如による食中毒
霊的存在を故郷に置き去りにしてしまった罪悪感
- ローカルな人びとは自身の被害観を伝えきれていない(ローカルな課題)。グローバル社会もその被害を正しく理解できない。(グローバルな課題)

情報学と文化人類学の文理融合

- 私がしてきたこと
フィールドワーク、写真や公文書収集
論文を書いて、埋もれてしまっている。
- 情報学の力を借りる
- 広がりにくい情報を拡散する。=>文化人類学と情報学との分離融合研究の必要性を感じる



●マーシャル諸島アーカイブについて

【コンセプト】 マーシャル諸島の人々が、核実験と文化について気軽に知ることができ、まじめに考えることができるような、ウェブサイトを作る。

プロジェクト概要

- ① 被ばくや暮らしに関する写真、映像記録などを使って、人びとの記憶を喚起し、被害者ではない人たちも含めて、被害を共有していくワークショップを日本とマーシャル諸島で開催します。
- ② 被ばく当事者がインターネット上に書き込み、それを閲覧した人たちと被ばく者が、互いに被害観を語り合うことのできるウェブシステム「マーシャル諸島アーカイブ」を作ります。アーカイブは、アクセスする人たちが更新し発展させるとともに、随時改良していきます。アーカイブを通じて、新たな「被ばくコミュニティ」を形成する後押しをしていきます。(アクションリサーチ)

TD研究とは

- Transdisciplinary team science represents the greatest degree of cross-disciplinary integration in the continuum. Researchers from different disciplines work interdependently to develop and apply conceptual frameworks, theories, methods, and measures that both synthesize and extend beyond discipline-specific approaches to create new approaches to address the scientific problem.

ローカルとグローバルな課題の関係

- 自身の被害がどのようなものかを考えるにあたり、米国の枠組みで考えてしまい、自分たちの文化から被害を考えることができなくなっている状態。暮らせないなら、食料援助＋補償金という思考。
- わたしが調査したこと(自文化の中で被害を捉える)を論文以外の方法で伝える必要性
- ⇒ 超学際的研究へ(2017年)

問題点①

AIによる白黒写真の着彩

間違った色付け
→間違った情報

色付けの技術ではなく、プロセスそのものの効果

対話が生み出される。世代を超えた対話の創出

問題点②

アクションリサーチの問題点

被害をグローバルに知らせることを、他者である研究者が良かれと思ってしてしまう状況をどう捉えるか。

介入

「現地の人びとが生身をさらして生活をかけている実践の現場に・・・(中略)・・・それまでそこになかった研究(リサーチ)という活動をそれまでそこにいなかった研究者が持ち込むという「介入」は、たとえば、研究者や研究機関(大学)がもつ権威性を無反省に持ち込むなど、大きな弊害をも伴いうる」(矢守 2010:2)

問題点②

欠如モデルとしてのアーカイブ

欠如モデルの一形態

意識的な上から目線と無意識的な上から目線(
近藤 2019:47)



(撮影：島田興生)

2020/2/25

成果の社会への実装方法 共に考え、計画し、作り、運用する

国際社会に伝えなければならないことははっきりしている。(マーシャル諸島政府の立場、国連人権理事会の勧告)

知らせる方法について、現地の人々と意見交換を通じて作っていく。(2020年)

人びとが集まり、対話する場のオーガナイズ＝
超学際的研究へ

参考文献

近藤康久「オープンサイエンスとオープンガバナンスの倫理的諸問題」『社会と調査』23号、2019 年 9月 pp. 43-51.

矢守克也『アクションリサーチー実践する人間科学』新曜社、2010年。